

降雨時における負荷量は、平成14年8月から平成15年3月に実施した現況調査の結果から100mm以上の降雨が確認された連続した2日間（平成14年10月29日、30日）の総雨量は333mmを対象とすると、轟川河口地点（St. H）での2日間の総流量は約1,900千 m^3 、総SS負荷量は、490 t と試算される。総SS負荷量を流域面積比から轟川流域全域（1,056 ha）と轟川流域に含まれる事業実施区域（29ha）に分けると、降雨時に事業実施区域から流出している総SS負荷量は約13,000kgとなる。この規模の降雨があった場合、機械処理設備での処理量は、流出係数0.82を用いると約79千 m^3 となり、SS濃度25mg/L以下にした処理水を約9日かけて排出することになる。轟川に排出される総SS負荷量は約2,000kgで、現況負荷量の約15%となり、約11,000kgの負荷量が削減される。

なお、降雨前の集水施設の点検、管理方法については、「赤土等流出防止対策技術指針（案）」（平成7年、沖縄県土木建築部）に基づき計画することとし、詳細については、各現場条件に応じた管理マニュアル等を作成し、適切に行うものとする。具体的には、降雨前の集水施設の点検については、築堤に崩れはないか、場内仮設調整池は必要な容量となっているか等について点検し、必要に応じて維持補修を行う計画とする。また、降雨中には、場内仮設調整池、導水路等をパトロールして、各施設が機能しているか監視し、その結果を記録して、緊急時対応などに活用する。機械処理施設の管理に当たっては、処理水のSS濃度が目標値の25mg/L以下を満足しているか監視・記録し、必要に応じ適切な措置を行うこと、処理に必要な薬剤などは常に確保しておくこと、動力は台風等による電源の供給不能を考慮し発電機を用い、緊急時に対応できるよう十分に備える。